

2018 年 アメリカ学会第 52 回年次大会 プログラム

1. 開催日 2018 年 6 月 2 日(土) 6 月 3 日(日)
2. 会場 北九州市立大学北方キャンパス
〒802-8577 福岡県北九州市小倉南区北方 4 丁目 2 番 1 号
交通アクセス : <https://www.kitakyu-u.ac.jp/access/kitagata.html>
会場校連絡先 中野博文 (電話:093-964-4077 Email: jaas2018@kitakyu-u.ac.jp)
3. 受付 本館1階 キャリアセンター・プロジェクトルーム
4. プログラム (報告要旨は大会会場で配布する【大会要項・報告要旨集】に掲載します)

午前の部 自由論題 9:15~11:45

* “GS” denotes “graduate student.”

【自由論題A: The United States and the World in the Nuclear Age】本館 C-202

司会: Miya SUGA 管美弥(Tokyo Gakugei University 東京学芸大)

討論: Fumiko NISHIZAKI 西崎文子(The University of Tokyo 東京大学)

Randal L. HALL(Rice University)

“Democracy, Resources, and the Environment in 1950s America”

John HOWARD (King’s College London)

“After Uncle Sam: Labor, Loss, and Nuclear Disaster in Isabel Álvarez’s *La Base*”

Kazushi MINAMI 南和志 (University of Texas at Austin, GS)

“The New Open-Door Constituents: Grassroots Activism for the Reconstruction of U.S.-Chinese Relations in the Cold War”

【自由論題B: Representation and Digital World】本館 C- 203

司会:Yuko MATSUKAWA 松川祐子(Seijo University 成城大学)

討論:Keita HATOOKA 波戸岡景太 (Meiji University 明治大学)

Edward K. CHAN (Waseda University 早稲田大学)

“Constructing an Online Reference Database for Cinematic Connections between the US and Japan”

Cem KILIÇARSLAN (Hacettepe University)

“The Past, the Present and the Future: Manipulation of History and Memory in Science Fiction Works in the Post-Truth Era”

【自由論題 C: Activism and American Society】本館 C- 302

司会:Masako NAKAMURA 中村雅子(J. F. Oberlin University 桜美林大学)

討論:Yasuo ENDO 遠藤泰生 (The University of Tokyo 東京大学)

Jeffery A. JOHNSON (Providence College) “The Revolution of the Future: Shusui Kotuku in California”

Bruce P. BOTTORFF (Kansai Gaidai University 関西外国語大学)

“Forging American Womanhood: The Acculturation of Honolulu’s Second-Generation Immigrant Girls, 1920s-1930s”

Alan WILLIAMS (University of Washington) “Queering the Color Line within the Color Line:
W. E. B. Dubois and the Transpacific”

【自由論題 D 文学におけるポリティクス】本館 C-303

司会: 宮本敬子(西南学院大学) 討論: 舌津智之(立教大学)

松田卓也 (ノース・テキサス大学・院)

「Norman Mailer の *The Naked and the Dead* におけるインターレイシャルでトランスナショナルな想像力」

田浦紘一郎 (成蹊大学・院) 「Calling Nature—*Moby-Dick* における空間表象と適切な名前」

五十嵐 舞 (一橋大学・院) 「わたし自身が選んだ愛——トニ・モリスン『ジャズ』における愛と自己選択」

杉野俊子 (工学院大学) 「吉川八重と「鈴木という」男——家族史から 1900 年代初期の日系アメリカ移民を探る」

【自由論題 E 「アメリカ化」の諸相】本館 D-301

司会: 菅原和行 (福岡大学) 討論: 大森一輝 (北海学園大学)

齋藤祐実 (愛知大学) 「1970 年代のハワイ州内でのアフリカ系アメリカ人」

井口 裕紀子 (同志社大学・院) 「ウィメンズマーチにおけるソーシャルメディアとクラブティヴィズムの役割」

春田素夫 (元日本大学) 「インディアン領(the Indian Territory)」という言葉」

石黒 安里 (同志社大学) 「シオニズムへの相反する態度から見る改革派ユダヤ教のアメリカ化——カウフマン・コーラーを中心に——」

【自由論題 F Intimate Histories of US Imperialism and Colonialism】本館 D-302

司会: Eiichiro AZUMA 東栄一郎 (University of Pennsylvania)

討論: Sayuri SHIMIZU 清水さゆり (Rice University)

Maki KODAMA 児玉真希 (Rice University, GS)

“Writing to Sell Texas: Women’s Travel Accounts and Settler Colonialism, 1830s–1850s”

Minami NISHIOKA 西岡みなみ (University of Tennessee at Knoxville, GS)

“The U.S. in Asia in the 1870s: General Grant’s Visit to East Asia and the Japanese Annexation of Ryukyu”

Eri KITADA 北田依利 (Rutgers University New Brunswick, GS)

“The Fantasy of ‘Native Savagery’ Masculinity and the Intertwined Imperialism of Japan and the United States in a Philippine ‘Frontier’”

Yuki TAKAUCHI 高内悠貴 (The University of Illinois at Urbana–Champaign, GS)

“Queens of the Ryukyu Islands: Filipino Workers and the Celebration of the Fourth of July Independence Day in Okinawa under the US Military Occupation”

昼食休憩 12:00～12:50

理事・評議員会 12:05～12:50 C-301

午後の部: 本館 A101

清水博賞・斎藤眞賞授賞式 13:00 ~13:10 本館 A-101

第一部: 会長講演シンポジウム 13:15~15:45 本館 A-101

Chair : Yuko TAKAHASHI 高橋裕子 (Vice President, JAAS / Tsuda University アメリカ学会副会長/
津田塾大学)

Keynote Speech 1: Edward L. AYERS (President, OAH / University of Richmond)

“Civil War, Defeat, and Reconstruction in the United States”

Discussant: Ken CHUJO 中條献 (J.F. Oberlin University 桜美林大学)

Keynote Speech 2: Fumiaki KUBO 久保文明 (President, JAAS / The University of Tokyo)

アメリカ学会会長 / 東京大学)

“Japan-US Alliance in the Face of Populism: The Vulnerability of the Asymmetric Alliance in Terms
of the Rights and Obligations”

Discussant: 佐々木卓也 Takuya SASAKI (Rikkyo University 立教大学)

第二部: ラウンドテーブル「カントリーミュージックを通して見える米国社会」

16:00~17:30 本館 A-101

司会: 久保文明 (東京大学)

講師・演奏: チャーリー永谷 (ミュージシャン)

コメント: 松岡泰 (熊本県立大学名誉教授)

青木深 (東京女子大学)

懇親会 18:30~20:30 リーガロイヤル小倉

〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目14-2 Tel: 093-531-1121

第 2 日 6 月 3 日 (日)

午前の部 JAAS-ASAK パネル・部会・Workshop 9:00~11:30

【JAAS-ASAK PANEL Distant-reading Elizabeth Bishop and Travels】 本館 C-302

司会: Tomoyuki IINO 飯野友幸 (JAAS / Sophia University 上智大学)

報告: Yangsoon KIM (President, ASAK / Korea University)

“Travelling across Borders: The Exterior and Interior Landscapes in Elizabeth Bishop’s Poetry”

Akitoshi NAGAHATA 長畑明利 (JAAS / Nagoya University 名古屋大学)

“Questions of Travel in the Works of Elizabeth Bishop and Yoko Tawada”

Meghan KUCKELMAN (JAAS / Meio University 名桜大学) “Myself in a Distant Land:

The Travel Writing of Elizabeth Bishop and Leslie Scalapino”

【WORKSHOP A Transpacific Overtures: The Black Atlantic and Settler Colonialism I】 本館 C-303

司会: Fuminori MINAMIKAWA 南川文里 (JAAS / Ritsumeikan University 立命館大学)

討論: Taihei OKADA 岡田泰平 (JAAS/University of Tokyo 東京大学)

報告: Junaid RANA (ASA /University of Illinois at Urbana-Champaign)

“Become the People: US Left History and the Global Muslim South”

Bethel SALER (OAH/ Haverford College)

“Unsettling the Category of Settler Colonialism”

Katherine BENTON-COHEN (OAH/ Georgetown University)

“Black Votes Matter: Black Suffrage and the Immigration Act of 1917”

Rika LEE 李里花 (JAAS/ Tama Art University 多摩美術大学)

“Becoming ‘Korean’ Dancer in Postwar Hawai‘i: Halla Pai Huhm and her Transpacific Routes”

【部会 A 19 世紀アメリカと家事をめぐる言説】本館 C-202

司会: 下條恵子 (九州大学) 討論: 小檜山ルイ (東京女子大学)

報告: 細谷等 (明星大学) 「家事、効率、ユートピア—世紀転換期アメリカの家事情」

佐藤光重 (成城大学) 「「イオラオスのような友もなく」—『ウォールデン』における労働」

久田由佳子 (愛知県立大学) 「19 世紀前半ニューイングランドにおける市場革命と家事労働」

【部会 B 20 世紀アメリカの諸思想】本館 C-203

司会: 中野勝郎 (法政大学) 討論: 井上弘貴 (神戸大学)

報告: 生澤繁樹 (名古屋大学) 「ジョン・デューイと社会変革への教育」

岡山裕 (慶應義塾大学) 「在来種なのか外来種なのか? アメリカ行政国家の正当性論争」

中野博文 (北九州市立大学) 「帝国主義と国際主義の狭間で—東部知識人が抱いた
文明観の転換」

昼食休憩 11:30~13:10

分科会 11:40~12:55 (内容については下記分科会のご案内をご参照ください)

新理事会 12:30~13:00 本館 C-301

総会 13:10~13:40 本館 C-301

午後の部 13:50~16:20 部会 Workshop

【WORKSHOP B Transpacific Overtures: The Black Atlantic and Settler Colonialism II】本館 C-202

司会: Takashi ASO 麻生享志 (JAAS/ Waseda University 早稲田大学)

討論: Rika NAKAMURA 中村理香 (JAAS/ Seijo University 成城大学)

報告: Jay GARCIA (ASA / New York University)

“Randolph Bourne, ‘Trans-National America,’ and Settler Colonialism”

Junyon KIM (ASAK / Hongik University)

“The African Diaspora Revisited in the Post-Racial Era”

Naoko SUGIYAMA 杉山直子 (JAAS / Japan Women’s University 日本女子大学)

“One World, Many Tribes”: Transnational Imagination in Leslie Marmon Silko’s *Almanac of the Dead*”

【部会 C アダプテーションの功罪—「映画化」を超える批評性を求めて】本館 C-203

司会: 川本徹 (名古屋市立大) 討論: 日野原慶 (大東文化大学) 西山智則 (埼玉学園大学)

報告: 和氣一成 (早稲田大学) 「交差するアダプテーション」

新井潤美 (上智大学) 「オースティン映画の解釈と受容」

川本徹 (名古屋市立大) 「ボンネットを被った西部劇——女性開拓者の日記と

『ミックス・カットオフ』

武田悠一 (元南山大) 物語のサバイバル——『ブレードランナー』をめぐって

【部会 D 文化冷戦の諸相—ロックフェラー財団・翻訳・Creative Writing】本館 C-302

司会: 越智博美 (一橋大学) 討論: 中嶋啓雄 (大阪大学)

報告: 井上健 (日本大学) 「冷戦初期日本におけるアメリカ小説翻訳」

金志映 (成均館大学) 「文化冷戦下における日本文学者の渡米—ロックフェラー財団の文学支援を視座として」

吉田恭子 (立命館大学) 「冷戦とクリエイティブ・ライティング」

【部会 E 「争うアメリカ」の諸相】 本館 C-301

司会: 清原聖子 (明治大学) 討論: 飯田健 (同志社大学)

報告: 安岡正晴 (神戸大学) 「トランプ政権 対 聖域都市: 「不法移民」をめぐる連邦—州—地方政府関係の現段階」

会沢恒 (北海道大学) 「政策変更の法的回路: トランプ政権」

兼子歩 (明治大学) 「トランプの時代におけるジェンダーと人種の交錯」

5. 注意事項

1) 大会参加登録は、学会ホームページの大会参加登録ページ上で5月6日までにお願い致します。大会前日開催の市民向けシンポジウムの参加申込みも同様にお願い致します。

2) 懇親会の参加には事前の申し込みが必要です。大会参加登録ページでお申し込みのうえ、懇親会費5,500円を5月16日までにご納入ください。払い込まれた懇親会費はいかなる事情があってもお返しできませんので、ご注意ください。当日参加については会費6,000円を予定しておりますが、人数に限りがございます。必ず参加をご希望の場合は事前の払い込みをお勧めいたします。

3) 年会費の当日払いは受け付けられませんのでご了承ください。

4) 昼食: 6月2日(土)、3日(日)ともに、大学内の食堂が営業しております。

5) 会場までの交通アクセスについては、学会ホームページをご覧ください。宿泊や交通手段の確保は各自でお願いいたします。

6) 大会初日午後の会長講演シンポジウム、ラウンドテーブルは一般公開となっています。また、アメリカ研究振興会、北九州観光コンベンション協会の協賛、北九州市立大学、北九州市などから後援をいただくため、今回の年次大会では非会員の大会参加費の徴収はいたしません。但し、参加にあたっては会場受付でご登録をお願いいたします。

7) 事前参加登録者数により会場が変更になることがあります。

8) 理事・評議員会について、弁当の注文は受け付けませんので、ご了承ください。

6. 会場案内 (全て本館で行われます)

受付 キャリアセンター・プロジェクトルーム

書店等出店	正面玄関前ロビー
会員用控室	C-201
本部スタッフ・役員控室	D-203
外国人ゲスト控室	B-201
登壇者用控室	B-202

6月2日(土)

午前 自由論題 C-202, 203, 302, 303, 301, 302
昼食時 理事・評議員会 C-301
午後 授賞式、会長講演シンポジウム、ラウンドテーブル A-101

懇親会 リーガロイヤル小倉

6月3日(日)

午前 部会およびワークショップ C-202, 203, 302, 303
昼食時 分科会 D-201, 202, 301, 302, 303, 304, 401, 402, 403, 404
午後 新理事会 C-301
総会 C-301
部会およびワークショップ C-202, 203, 301, 302

第52回年次大会 分科会のご案内 6月3日(日) 11:40~12:55

1.「アメリカ政治」 責任者:菅原和行(福岡大学)ksugawara@fukuoka-u.ac.jp 本館 D-301

テーマ:「2018年中間選挙を考える」

報告者:山岸敬和(南山大学)

2018年11月に行われる中間選挙の結果は、トランプ政権への審判がどのように下されるのかという意味で重要である。しかしそれに留まらず、それは2020年の大統領選挙の行方にも大きな影響を及ぼす。歴史的な低支持率を続けるトランプ政権への評価が、議会選挙にどのように影響を与えるのか。トランプ氏が選挙公約として掲げながら達成できていない問題—オバマケア撤廃やメキシコ国境の壁建設などの国内政策、対イラン政策をはじめとする対外政策の転換など—が中間選挙にどのように影響を及ぼすのか。そして、中長期的な政治状況の変化の中で、今回の中間選挙をどのように捉えたら良いのかについても議論したい

2.「アメリカ国際関係史研究」 責任者:森聡(法政大学)smori@hosei.ac.jp 本館 D-302

テーマ「【合評会】菅英輝著『冷戦と「アメリカの世紀」—アジアにおける「非公式帝国」の秩序形成』(岩波書店・2016年)」

報告者:菅英輝(京都外国語大学)、中島琢磨(龍谷大学)、水本義彦(獨協大学)

菅英輝会員の著作『冷戦と「アメリカの世紀」—アジアにおける「非公式帝国」の秩序形成』について、中島琢磨会員と水本義彦会員より書評コメントを発表する。右を受け、著者・菅会員より応答の後、フロアとの質疑応答を行う。冷戦期アメリカによる地域秩序の形成をめぐる諸問題に関心のある会員におかれては、奮ってご参加いただきたい。

3.「日米関係」 責任者:末次俊之(専修大学)suetoshi007@gmail.com 本館 D-303

テーマ:報告:「トランプ政権 1 年目の紛争介入政策:アジア太平洋地域への示唆を視野に」

報告者:西住 祐亮(中央大学・講)

各政権が世界各地の紛争にどの程度、またどのような形で関与・介入するかという問題は、一義的には各事例に即して検討すべきものである。しかし同時に、事例を貫いて観察できる大きな特徴が、政権ごとにあるのも確かであり、こうした大きな特徴を把握することは、各政権の基本的な世界観や政策決定スタイルを理解する一助ともなる。

オバマ前政権については、介入にも不介入にも過度に傾斜しない中間的性格や、有権者の反応に対する配慮の強さといった特徴が、事例を貫いて観察された。これに対して、現在のトランプ政権については、不透明な部分がまだまだ多い。ただおぼろげではあるが、幾つかの特徴が明らかになりつつあることも確かである。例えば、介入と不介入の間で大きく姿勢が変化する傾向や、行政府内の足並みの乱れが顕在化しやすい点などは、複数の事例で観察できるものと言える。

この報告では、オバマ前政権との比較を通して、トランプ政権の紛争介入政策を概観し、その上で、アジア太平洋地域への示唆についても検討する。

4.「経済・経済史」 責任者:名和洋人(名城大学)nawa@meijo-u.ac.jp 本館 D-304

テーマ:「アメリカ移民制限政策の成立と企業・経営者団体ー19 世末から 1920 年代までー」

報告者:下斗米秀之(敬愛大学)

移民の自由な流入は、「移民の国」アメリカを特徴づける経済成長の源泉であった。それにもかかわらず、アメリカは好景気と言われた 1920 年代に、自由放任的な移民政策から移民制限政策へと舵を切った。労働力需要の多くを移民労働者に負っていたアメリカ企業は移民制限をどのように捉えていたのか。本報告では移民問題に関する企業経営者らの活動を跡付け、彼らの移民政策への影響力を検証する。その際、企業規模や構成メンバーの異なる 3 つの経営者団体の活動、企業経営者が連邦議会や移民行政に対して行った請願活動を考察の軸に据える。アメリカ移民法の改革運動を担った企業の客観的な利害状況とその改革意識を、さらには 1920 年代の移民政策策定における産業界の役割をより明確なものにしたい。このことにより、個人の国籍・人種といった「属性的要素」を基準に移民を選別していた 1920 年代においても、国内労働力市場の需給関係を考慮した雇用基準の要素が組み込まれたことを明らかにする。

5.「アジア系アメリカ研究」 責任者:野崎京子(京都産業大学)nozaki@cc.kyoto-su.ac.jp 本館 D-201

テーマ:「アジア系アメリカ人研究と日本人娼婦の歴史経験」

報告者:大原関一浩(摂南大学)

明治期に北米西部に移住し売春に従事した日本人女性たちの経験は、アジア系アメリカ人史の一部であるが、研究は進んでこなかった。日本史の分野では、「からゆきさん」研究の蓄積があるが、近代日本の国家建設やアジアにおける膨張の枠組みのなかで彼女たちの経験が語られる時、北米は周辺的なトピックになる。しかし過去 20～30 年間で、人・モノ・情報の国際的な動きに歴史研究者の関心が集まるなかで、ジェンダー・セクシュアリティ・移住などが重要な研究テーマになりつつある。この報告では、2016 年に出版した著作の成果を紹介しながら、北米における日本人娼婦の歴史経験を研究する意義と課題を、特にアジア系アメリカ人研究との関連で検討する。

6.「アメリカ女性史・ジェンダー研究」 責任者:鈴木周太郎(鶴見大学)shutarosuzuki@me.com

本館 D-202

テーマ:「日系アメリカ人二世の朝鮮戦争の従軍経験と市民権——ジェンダーとエスニシティの視点から」

報告者:臺丸谷美幸(水産大学校)

本報告はアメリカ合衆国市民として朝鮮戦争(1950-1953)へ従軍した日系アメリカ人二世に関する考察である。日系人は朝鮮戦争期から人種混成部隊に配属された。この背景には東西冷戦対立の激化と米国内における公民権運動の高まりがあった。従軍者の大半は二世男性であり、5000-6000 人と推定される従軍者のうち、2000 から 3000 人は朝鮮半島へ派兵され、僅かであるが二世女性も志願した。日系人が陸軍だけでなく、海軍、空軍、海兵隊へ志願が可能となるのも朝鮮戦争期からである。本報告では、カリフォルニア州で行った日系二世の朝鮮戦争退役軍人へのインタビューや退役軍人による自伝の分析を元に、日系二世たちの朝鮮戦争への志願動機を明らかにし、従軍経験が彼ら／彼女らの市民権へいかなる影響を及ぼしたのかをジェンダーとエスニシティの視点から検討する。

7.「アメリカ先住民研究」 責任者:佐藤円(大妻女子大学)mdsato@otuma.ac.jp 本館 D-401

テーマ:「先住民アイデンティティと文学分野における交雑性:シャーマン・アレクシーとトマス・キングの比較から」

報告者:長岡真吾(福岡女子大学)

討論者:余田真也(東洋大学)

先住民文化と主流文化との交雑と相互浸透をテーマに、シャーマン・アレクシーとトマス・キングというふたりの作家を比較して考察する。スポケーン/コダレーン族であり保留地の出身であるアレクシーは、白人主流文化のなかで成功し受容されたことにより先住民コミュニティへの帰属を相対的に希薄化させていると考えられる部分がある。また先住民文化の継承という点でも独自の立場を保っている。それに対し、ギリシア系・ドイツ系とチェロキーの混血であるキングの方は、白人社会から出て先住民文化のなかへと向かい、作家としての活動を通して先住民文化を再構築し継承/強化しているを見出すことができる。このふたりの作家を対照的なケースとして検証することによって、民族アイデンティティの真正性と文化アイデンティティの交雑性について考察する。

8.「初期アメリカ」 責任者:石川敬史(帝京大学)t-ishikawa@main.teikyo-u.ac.jp 本館 D-402

テーマ:「独立革命後の合衆国奴隷制史と‘second slavery’論」

報告者:西出敬一(徳島大学・名)

独立革命を境にして北米の奴隷制史が大きく変る。(1) 奴隷制が、それを容認する憲法のもとで、初めて国家的制度となり、国家の政治と連動して発展する(pro-slavery politics)。(2) 奴隷制の領域的拡大対象が、メキシコ領からキューバまで、トランスナショナルな広がりをもつ(slave empire)。(3) 奴隷制が、産業革命後の新たな資本主義世界経済の主要な構成部分として発展する(capitalist world economy)。(4) 奴隷制生産に資本主義的手法—技術革新、時間による労働管理など—が導入される(modernity)。これらを19 世紀の大西洋奴隷制—キューバ、ブラジル、旧南部—の空前の展開の中に位置づけるのが‘second slavery’論である。それは、従来の旧南部奴隷制史への一国史のアプローチの限界を修正する、手掛かりとなりうると思われる。

9.「文化・芸術史」 責任者:小林剛(関西大学)go@kansai-u.ac.jp 本館 D-403

テーマ:ハイブリッド・カルチャーとしての戦前日本美術工芸

報告者:荒木慎也(成城大学・講)、中島朋子(東海大学)

近年、現代日本のメディア文化をハイブリッドなものとして捉える議論があちこちでよく見られるが、そうした日本的ハイブリッド性の起源は明治・大正期にあると言っていいだろう。欧米文化を受容したうえで変容し、異種混雑化、土着化の過程を経て創られた戦前日本の美術工芸を現代に繋がるものとして検証す

ることによって、文化・芸術史研究に新たな視座を提供しようというのが今回の分科会の趣旨である。荒木氏には、日本の石膏デッサン教育がヨーロッパの美術アカデミズムやモダニズムの影響を受けつつ、独自の教育論として発展していった歴史過程を、技法と教材の両面から報告してもらい、中島氏には、日本の装身具が、明治・大正期に政府・高等教育機関・民間企業の連携を通じて洋風デザインや技法を受容し、西洋宝飾品文化がローカル化しながら日本に定着していった歴史的過程について報告してもらう予定である。

10. 「アメリカ社会と人種」 責任者: 武井寛(岐阜聖徳学園大学) h.takei@gifu.shotoku.ac.jp 本館 D-404
 テーマ: 「斧と犁と丸太小屋のホワイトネスー戦間期米国の入植者表象と人種論との関係性についてフィン系移民の祝祭運動から考えるー」

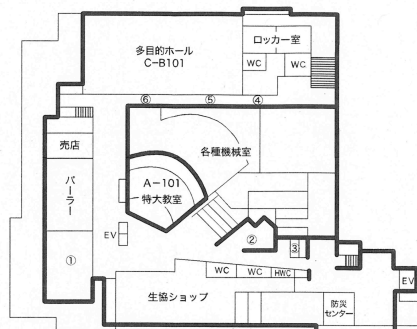
報告者: 鈴木俊弘(一橋大学大学・院)

合衆国議会がデラウェア川流域の「ニュー・スウェーデン植民地」入植三百周年記念祭(1938)にフィン系移民組織の参加を認めたとき、かれらが目標としたのは、米国史で「フィン人」を物語る書籍の文言と修辭を補正し、再流通させることだった。なぜなら当時「フィン人」は人種階梯論のなかで非白人種に分類されていたばかりか、スウェーデン系の執筆家たちが 17 世紀の「フィン人」を森林地帯の内奥を放浪し、放蕩に鳥獣を捕獲し森林を焼いていく「ノマド民」と表象していたからである。フィン系移民の試みの背景に浮かびあがるのは、先住民を定住せぬ退廃的人種として駆逐し、堅牢な住居と犁耕農地を築いていく農民を白人種の文明論的牽引者として礼賛する入植史観である。報告者は戦間期の米国における入植史表象に人種論がどのように嵌入していたのかを考察し、逆にその偏向を踏み台に白人性を獲得しようとしたフィン系移民たちの企図を紹介する。

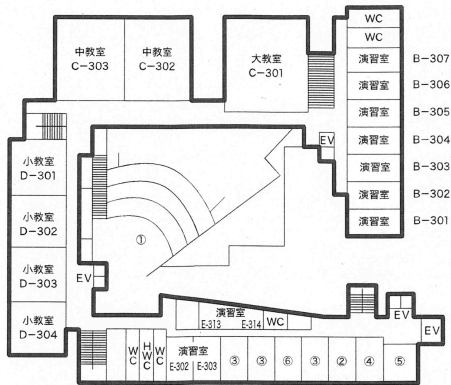
北九州市立大学キャンパスマップ



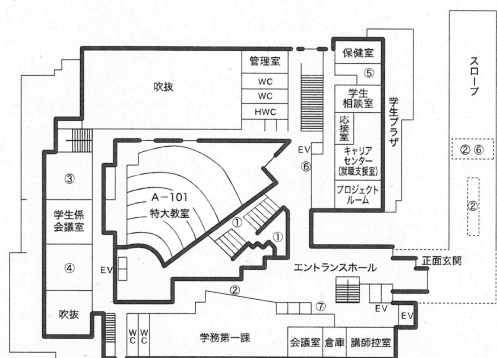
【本館】



B1F ①第1学生ホール ②第2学生ホール ③ATM ④事務局掲示板
⑤学生用掲示板 ⑥学生会・自治会掲示板



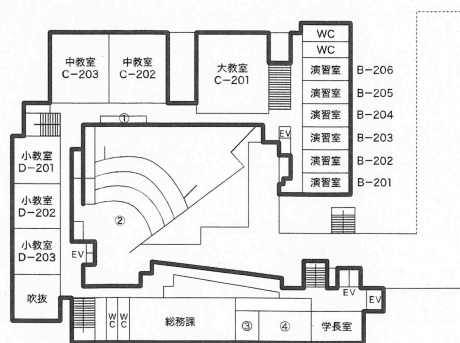
3F ①屋外学生ホール ②学部長室(文) ③副学長室 ④理事控室 ⑤理事長室
⑥国際環境工学部控室



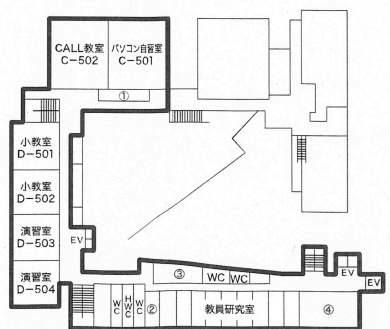
1F ①第3学生ホール ②学務第一課用掲示板 ③広域入試課・入試広報センター
④地域・研究支援課 ⑤カウンセリングルーム ⑥学生プラザ用掲示板 ⑦公衆電話



4F ①英米学科資料室 ②中国学科資料室 ③外国語学部長室



2F ①翻訳ブース ②屋外学生ホール ③事務局長室 ④経営企画課



5F ①スタジオ・AV編集室 ②AVライブラリー ③国際関係学科資料室
④会議室

HWC:身障者用トイレ